

借りてくるように」とおっしゃいました。その家は李奇完氏の娘が住んでいる家でしたが、婿は国会議員でした。小格洞がどこなのか分からないので、住所の書いてある紙を持って電車に乗り、しばらく乗ってから降りて道行く人に聞くと、番地があったので、すぐに捜し出すことができました。

うれしくなって、大きな戸を開けて入ってみると、馬のように大きな犬がほえ出しました。犬がほえる声を聞きつけて外へ顔を出した人が、孫を背負った李奇完氏その人でした。日が暮れてもう暗くなっていました。彼女は、私がどうしてここに来たのかと尋ねました。私は先生からのお願いを伝えました。彼女は、「今はお金がありません」と、一言だけ言いました。

私が何も言えずに帰ろうとしたところ、彼女は、「今先生はどこにいらっしゃるのか」と聞くのです。私は腹が立って、「先生の今の住所はない」と答えました。丁寧な返事ができる状態ではありませんでした。心は嘆きの思いでいっぱいでした。こんなに大きな家で、お金が何千ウォンもないと言うので、私は知らず知らずのうちに涙が出てきました。

夜九時ごろ先生の所に戻り、どんな報告をしたらいいかとためらいながら、「お金がないそうです」と申し上げました。先生は、何の返事もされませんでした。私がもう家に帰ろうとしてあいさつをする、「明日十一時にバゴダ公園の裏で会うか、そうでなければ、あさつて必ず来てください」とおっしゃいました。「はい」と返事をして家に就いたものの、自分でも知らないうちにため息が出て仕方ありませんでした。

世の中には立派な人も多く、お金を持った人も多いのに、先生によく侍ることのできない自分自身が恨めしいこと、この上なかったのです。一日中悩みながら歩き回ったので、気が抜けてしまいました。止めどもなく涙が流れました。家に帰れば、引越してきた荷物の整理や冬のキムチ作りなど、やる事がたくさんあって、明日また時間が取れるだろうかという心配もありました。

破壊されたソウルの街には、街灯もありませんでした。暗くなったので、電車の本数も少なくなりました。しばらく待った後、やっと電車に乗って厚岩洞の家に着くと、夜十時を回っていました。子供たちは心配しながら、なぜこんなに遅くなったのかと聞くのでした。(つづく)

## 特別寄稿

# 共生共栄共義主義について(前編)

共産主義体制が実質的に消滅し、資本主義社会もますます混迷の度を深めている今日、私たちの向かうべき社会の理想像が切に求められています。統一運動では未来の理想像として共生共栄共義主義社会を掲げていますが、この論文ではそれがいかなる社会か、分かつていかに具体的に説明されています。

韓國統一思想研究院院長 李相憲

「共生共栄共義主義」は統一原理で言っている理想社会の名称です。

マルクスは、到来する未来社会の理想像を共産主義と呼びましたが、それが結局、虚構であったことはすでに明らかにされています。それに対して、統一原理では未来社会の理想像を共生共栄共義主義社会と見るのです。

共生共栄共義主義の説明において、まず第一に扱うのは、

共生共栄共義主義社会の到来の現実的必然性ということです。すなわち現実的に見て、資本主義社会の次の段階の社会は必然的に共生共栄共義主義社会であるということですから。言い換えれば、経済的な面から見て、資本主義社会の次は決して社会主義社会でなく、また政治的な面から見て、自由民主主義体制の次は決して共産主義社会ではないということ。それは共生共栄共義主義社会なのです。

## 一、共生共栄共義主義社会の到来の現実的必然性

神の理想から見たとき、人類の始祖であるアダム・エバの墮落によって、創造目的が完全に達成された創造本然の理想社会が地上に立てられなくなったために、神はその失われた創造本然の世界を復帰しようとする人類歴史を摂理してこられたのです。したがって、罪悪史の終末の時点において、神の摂理によって理想世界が必ず立てられるようになるのですが、それがすなわち共生共栄共義主義社会なのです。

このように神の摂理から見たとき、共生共栄共義主義社会の到来は必然的です。しかし神の摂理を離れて現実的な面から見ても、すなわち現実問題の根本的な解決という観点から見ても、資本主義社会（自由民主主義社会）の次の社会は共生共栄共義主義社会にはかならないのです。なぜならば、資本主義社会の構造的矛盾と病弊を改革しようとして現れた共産主義が失敗に終わったからです。そして、その代案として現れるのが共生共栄共義主義社会です。

共生共栄共義主義は、文鮮明先生が統一原理において、悪や不信が深まっており、不正、腐敗、殺人、放火、破壊、強盗、拉致、麻薬中毒、アルコール中毒、性暴力等が収拾できないほど、急速に増大しつつあります。さらに環境汚染、貧富の格差、下層の人々の人権疎外、大学の騒乱、売春行為、奢侈等が増大の一途をたどっています。社会正義の守護者と思われてきた大学教授、弁護士、高官、宗教人、言論人の世界まで、不正がはびこり始めました。そして政党人は主権を利権と錯覚しており、国会は民意を代弁する立法機関と言うよりも党利党略を代弁する争いの場となっていました。

こうして政治も、経済も、社会規範もだめになってしまいました。これが今日の資本主義、自由民主主義のありのままの姿です。このような社会が理想社会でありえないのは、もちろんのことです。そしてこれから理想社会になる可能性も全くありません。資本主義社会のこのような病弊と混乱は何か大変革を加えなければ、決して収拾できないでしょう。収拾されなければ、無法天地と化して滅ぶしかなくなっています。

ところで、このような資本主義を最初に告発しながら変革を叫んだ人が、マルクスでありました。彼は資本主義の

初めて明らかにされた未来社会の理想像であって、一般の人にはまだ耳慣れない用語であるために、初めて聞く人には単なる夢のように聞こえるかもしれません。ところで過去の思想家や宗教の中には、そのような夢を持った人たちが少なくありませんでした。例えば理想国家を夢みたプラトン、永久平和を願ったカント、ユートピアを掲げたトマス・モア、理性国家を掲げたヘーゲル、そして大同世界を理想とした儒教、蓮華蔵世界を願った仏教、後天開闢の天道教等の宗教の創始者などがそうです。そのような夢は、夢としては美しいのですが、みな空想にとどまっています。

文先生の共生共栄共義主義社会も、このような実現性のない単なる夢としての理想像と見られやすいのですが、そうではありません。ここではそれが現実的な面から見ても、決して単なる夢ではなくて、必然的な動機による必然的な結論であることを明らかにしようとするのです。

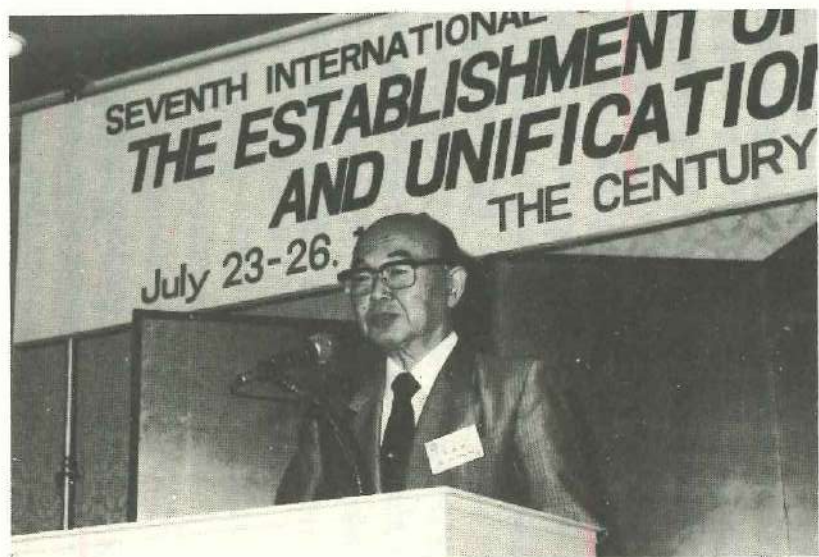
資本主義社会は人類の願った理想社会では決してありません。フランスの市民革命が標榜した「自由・平等・博愛」の標語はまだ実現されていないのみならず、多くの人民の不自由、不平等は増大しつつあります。博愛のかわりに憎

すべての病弊は、すべて構造的矛盾に起因すると言いながら、資本主義の矛盾を辛辣に告発しました。

構造的矛盾とは、利害の相反する階級の対立、すなわち資本家階級と労働者階級の対立をいいます。資本家階級は生産手段を所有して、莫大な利潤をあげています。ところが利潤の生産者は労働者であるにもかかわらず、彼らは糊口をしのぐだけの賃金をもらって生きているのです。このような構造的矛盾を土台として、富者はますます富み、貧しい人はますます貧しくなり、そしていろいろな社会的病弊と犯罪が発生するというのです。

マルクスの経済理論には、論理の誤謬と虚構が多くあり、特に資本主義の変革理論と、未来社会の理想像としての社会主義社会、共産主義社会の建設理論は全くの虚構です。そして今日、共産主義がかくも総体的に崩壊したのは、すべてこの理論の虚構性に原因があったのです。それにもかかわらず、マルクスの資本主義に対する告発それ自体は正当なものです。すなわち階級対立をもとにした資本家たちの搾取、富の遍在が原因となって、多くの病弊と犯罪が発生するという告発それ自体は間違いではありません。

アメリカをはじめとする西洋国家の指導者たちは、共産



第7回国際統一思想シンポジウムで基調講演する筆者

主義体制が総体的に崩壊する現象を見て、資本主義の勝利と自賛していますが、それは全く不当な錯覚です。資本主義社会に対するマルクスの告発は今もそのまま有効なのです。資本主義社会が変革されない限り、その構造的矛盾とあらゆる病弊や犯罪を根絶することはできません。そして、たとえ共産主義体制が崩壊したとしても、他に代案がない限り、再び共産主義が起らないとは限らないということをお忘れはいけません。

金日成主体思想に染まった南の運動家や学生たちは、現在、共産主義の宗主国であるソ連が崩壊し、また中国や北韓が重病患者のように困難にぶつかっているのを見ながら、赤い思想を捨てないで、かえって韓国の打倒のためにより強く結束しています。それはマルクスの時と同じく、暴力革命を正当化する社会的矛盾や多くの非理と病弊がそのまま残っているか、さらに増大しているからです。

今日、北の経済が破綻状態にあるにもかかわらず、金日成が南北対談で一步も後退しようとしなないのは、南のこのような増大する病弊のために、有事の時に左翼勢力の蜂起が可能になるだろうという妄想にとらわれているからです。

これは何を意味するかといえば、資本主義体制である南は、このままでは無法天地と浮乱の都市に化して滅びるか、共産化されて金日成の手に渡されるか、二つのうちのどちらか一方に帰結されざるをえないということです。それでは韓国を衰亡の危機から救う道は何でしょうか。また赤化から救う道は何でしょうか。その道はただ一つしかありません。それはすなわち神の真なる愛でもって全国民を和合させることです。

そうすることによって、政治も経済も正しくなるのであり、社会規範も正しくなるのです。真なる愛によって資本主義の構造的矛盾が一扫されるからです。神の真なる愛によって全国民を和合させ、すべての非理や病弊を一扫しようとする思想が、すなわち共生共栄共義主義です。韓国を今日の危機から救う道はただ共生共栄共義主義を受け入れるしかありません。言い換えれば、韓国の現実を眺めてみるときに、資本主義の次に来る社会は共生共栄共義主義社会しかないということです。

神の復帰摂理から見るとき、罪惡歴史の終末点に至って古い罪惡史が終わり、メシヤを中心とした創造理想世界である共生共栄共義主義社会が必ず到来することになってい

ますが、神の摂理を離れて現実的側面から見ても、神の真なる愛を中心とする共生共栄共義主義社会の到来は必然的です。したがって、題目を共生共栄共義主義社会の到来の現実的必然性としたのです。

ここで一つつけ加えたいのは、資本主義社会の次の社会のみならず、共産主義社会の次の社会も、やはり共生共栄共義主義社会であるということです。それはマルクスの共産主義思想が資本主義社会の構造的矛盾を正しく告発しており、しかも全く誤りの改革理論を持って立てた社会が共産主義社会であるからです。したがって共産主義が崩壊したのち、ロシアやあるいは東ヨーロッパが、経済破綻からすみやかに抜け出すために資本主義方式をそのまま導入するということは、共産主義崩壊後の暫定的な解決策となりえても、根本的な解決策には決してなりえないのです。資本主義の構造的矛盾と病弊が再現するからです。

## 二、共生共栄共義主義

共生共栄共義主義は、共生主義と共栄主義と共義主義の三つの単純概念からなっている複合概念であって、共生共

栄共主義の意味を正確に理解するためには、これらの単純概念を正しく理解する必要があります。それで共生主義と共栄主義と共栄主義のそれぞれの内容を具体的に説明します。

### (一) 共生主義

これは理想社会の経済的概念の側面を扱った概念、とくに所有の概念を扱ったものです。所有の側面から見るとき、資本主義経済の特徴は私的所有であり、社会主義経済の特徴は社会的所有です。ところで両者とも、愛という要素は全く排除されています。すなわち私的所有であろうが社会的所有であろうが、それは心理的要素を排除した単純な物質的所有にすぎないのが特徴です。

これに対して共生主義においては、神の真なる愛に基づいた共同所有です。ここでいう共同所有とは、第一に、神と私の共同所有であり、第二に、全体と私、隣人と私の共同所有をいいます。この共同所有は単純な物質的所有ではありません。神の真の愛をもとにした共同所有です。すなわち共同所有とは、一定の神の所有する財産を、神の真な

な土地と莫大な財産を独占しながらも、感謝もなく、良心の呵責すら感じなくなっています。隣りで人が飢えているのを見ても、見て見ぬふりをする資本家たちがのさばっている社会が、すなわち資本主義社会です。彼らはみな天道に反した生活をしているのです。

ところで神と人間との関係は父母と子女の関係です。父母と子女の関係の最も基本型は家庭です。家庭において、すべての財産は父母の財産であると同時に子女の財産です。家屋、庭園、田畑、家畜等は、父母の所有であると同時に子女の所有です。たとえ法的には父母の名義になっても、父母と子女の共同所有です。本然の世界では、父母は常に子女に真なる愛を施すので、子女は常に父母に感謝する心を持って、財産を大切に扱うのです。

家庭は三代が集まっているのが、その基本型です。すなわち祖父母、父母、子女の三代です。したがって家庭における共同所有は、三代の共同所有です。すなわち、真なる愛を中心とした祖父母と父母と子女の共同所有です。ここにおいて祖父母は神の身代わりです。したがって三代の共同所有とは、真なる愛の本体である神と祖父母と父母と子女の共同所有です。この三代にわたる家庭における共同所有

る愛が含まれた贈り物として、私と隣人が共同管理するよ

うに、神から授けられたことを意味するのです。創造原理から見たとき、被造世界はすべてが神の所有です。なぜなら被造世界は本来、神の愛の主管下にあるからです。創造主である神は、空には鳥が飛ぶように、水には魚が住むように、陸には獣が住むように、創造されました(創世記一・二〇―二五)。これは、空は神の愛を中心とした鳥たちの共同所有を意味し、海は神の愛を中心とした魚たちの共同所有を意味し、また陸地は神の愛を中心とした獣の共同所有を意味します。

たとえ鷲のような猛禽であろうとも、空の一部を独占しませんが、虎のような猛獣であっても、陸の一部を独占しません。狂暴なサメであっても、海の一部を独占しません。ところが神は、愛の主管権を人間に与えたので、人間は、空や海や陸はもちろん、鳥や魚や獣までも、神の真なる愛を中心として感謝の心をもって、共同所有することになっていました。すなわち自然は神と人間の共同所有なのです。

それにもかかわらず、人間だけが墮落によって個人主義に流れて陸や万物(財物)の一部を独占するようになりました。今日、自由民主主義という名のもとに、合法的に拡大

はすべての共同所有の原型です。この事実を根拠として、共生主義のもとでの共同所有を、「神の真なる愛に基づいた神と私、全体と私、隣人と私という、三段階の他者と私との共同所有であると同時に、神と全体と私たちの共同所有である」ということができます。

この家庭の所有形態を拡大したのが団体(企業体)における共同所有です。すなわち真なる愛の主体である神と、父母の立場にある社長と、子女の立場である従業員の三段階の共同所有であると同時に、神と私、社長と私、同僚と私という、三段階の他者と私の共同所有です。

企業体は、たとえ企業家が創立したとしても、本然の世界では、いったん神の前に捧げることになっています。いったん捧げて神の所有になってから、真なる愛によって再び神から賜うことによって、神との共同所有となるのです。このような手続きは単なる形式的な行為では決してありません。そのような手続きを踏むことによって、実際に神の真なる愛による加護と協力が与えられるのです。以上は企業体の例ですが、他の団体においても同じです。

家庭の所有形態をさらに拡大したものが国家レベルの共同所有です。例えば国営企業体の場合、企業体のすべての

財産は例外なく共同所有です。すなわち真なる愛の主体である神と、**国家の主権者の大統領と、企業体のすべての社員との三段階の共同所有であると同時に、また神と私、大統領と私、全社員と私という、三段階の他者と私の共同所有**です。ここにも神の真なる愛による加護と協力が常に与えられるのであり、大統領の愛による関心と政策が常に加えられるので、社員たちは神に感謝し、大統領に感謝しながら、共同所有の観念を持って、すべての財産を大切に扱います。これが国家レベルでの共同所有の概念です。

ここで一つ疑問に思うことがあると思います。すなわち理想世界には個人所有はないのかという疑問です。個人所有はもちろんあります。またなければなりません。なぜならば、人間は神の普遍相と個別相に似ているからです。すなわち人間は万人に共通な属性(普遍性)を持っていると同時に、一個人に特有な属性(個別相)を持っています。そして人間には、全体目的と個体目的という二重目的が与えられており、欲望とともに、愛を实践するための自由が与えられています。そのために個人所有が許されているのです。この事実を共同所有の原型である家庭的有形態をもって説明します。

絵をかいて、展覧会で入賞することによって父母を喜ばせ、また姉さんは自分の個人所有であるバイオリンで独奏会を開いて聴衆から絶賛を受けて父母を喜ばせたとしましょう。このとき、兄さんも、弟も、姉さんも、個人所有をもって全体目的を達成したのです。

このように個人所有は個体目的達成のみならず**全体目的の達成のためにも必要です**。人間には、欲望とともに愛と自由が与えられています。この欲望と愛と自由は、それぞれの独特な個性を生かしながら、そして個人所有を活用しながら、自由意志によって他人に愛を施すために、すなわち全体目的達成のために、人間に与えられているのです。このように個人所有は、個体目的のためのみならず全体目的の達成のためにも必要です。

ここにおいて問題になるのは、個人所有はどの程度まで許されるのかということです。それは自己の分に合う程度です。すなわち適正であればいいのです。ここで適正な量と質の程度は良心に任せます。本然の人間において良心はすなわち本心です。したがって、墮落した人間と違い、自分が必要とする量や種類は良心がすぐ分かるのです。良心が清い状態にあるからです。

家庭において、例えば農家の場合、家屋、庭園、田畑、家畜等の財産を共同に管理保存することは、目的という観点から見れば全体目的を達成するためです。全体目的達成のために、家族全員が共同に衣食住の生活をするのです。

すなわち同じ家で、同じ家計によって、着たり食べたりして暮しています。しかし同時に、各個人は独特な個性をもっているために、衣食住においても各自の事情や趣味に合うような生活をするのです。そのために専用の部屋や、衣服や、その他の生活必需品が必要な場合があります。そして父母は子女に小遣いを与えたりします。このようなものは個体目的を遂行するための所有、すなわち個人所有です。ところで個人所有は個体目的を達成するために必要ですが、全体目的達成のためにも必要です。共同所有をもつて共同生活をしながら全体目的を達成することもできます。個人所有をもつて個体的に全体目的を達成することもできるのです。

例えば、子女が父母に孝行して父母を喜ばせるのは全体目的の達成です。兄さんは自分の個人所有である本をたくさん読んで、優秀な成績を上げることによって父母を喜ばせ、また弟は自分の個人所有である絵の具を使って立派な

人間は欲望の程度、感謝の程度、満足の程度等、心理上の程度をよく物質量で表示します。例えば人の世話になった時、私たちは心に感ずる感謝の程度、つまり感謝量を品物の量と種類でもつて、または一定の金額でもつて表示します。同じく、個人所有も、自己の分相応に合うと感じる心理上の量や種類を物質の量や種類でもつて表示することができます。自己の心理量を物質量で表示することは自分以外には決してできません。そのとき、ちょうど食べ物を食べるとき、あまり少なければ体力が弱まるし、また食べすぎれば、おなかをこわすということを心が良く知って、適切な量と質を取るように、良心が清まれば、神がその良心を通じて教えてくれるために、分相応な心理量の決定はたやすくなされるのです。

ところで、ここで一つ明らかにしておきたいことは、たとえ良心によって、各自の分相応な個人所有の適正な量と質が決定されるにしても、それは決して同一ではありません。そこにはいくつかの理由があります。まず第一に、個人ごとに独特な個別相をもつていて性格と趣味が違うからです。第二に、個人はみな個性真理体であると同時に連体であるからです。連体とは、一定の格位において、上下、

前後、左右の対象に相対している存在です。その格位には一定の最小限の個人的な施しのための物質が必要です。このような物質の質と量は格位が高いほど、増大することもあるのです。そのために分相応な量といっても、その大きさはそれぞれ違います。

要するに個人所有は、それが真なる愛を投入するのに必要な個人所有であるとするならば、多少、多くても適正とするのです。以上で共同所有に関する説明を終わります。このような共同所有をもとにした共同経済に関する理論が共生主義です。

ここで経済という概念は、まず従来と同じように、第一産業、第二産業、第三産業をもとにした、財貨の生産、交換、分配、消費等に関する活動の総和を意味します。けれども既に述べたように、未来社会の経済は、神の真なる愛を中心とした共同所有が基盤となっているために、その経済活動の様相は過去のものとは全く違います。一言でいえば、経済活動のすべての過程は、物質的な財貨の流通過程のみならず、心情と愛、感謝と調和とともに流れるところの、物心一如の統一的過程です。財貨それ自体も、精神と愛が共に宿っているところの物心一如的な個体であり、流

通過程自体も、関係者たちの精神と愛がともに流れるところの物心一如的な過程です。

もう一つの特徴は、未来の世界は国境のない統一世界であるために、多くの地域的なブロック経済が有機的、調和的に統一された、一つの経済圏をなすのです。すべての産業は、神の定められた地域的特殊性に合うような地域的特殊産業と、地域性を超越した普遍的産業が調和をなす、いわゆる統一産業が成立します。ちょうどすべての個体が普遍相と個別相の統一体であると同じです。

そしてすべての産業は、人類全体の福祉増進を目的とするために、産業活動の直接的な結果は財貨の増殖です。そして未来社会において、経済政策が解決すべき最も深刻な問題は幾何級数的に膨脹する人口の問題です。

かつてマルサスも人口問題を憂慮したのであり、七〇年代のローマクラブも、この問題に対して警告を発しています。ところが、この難問題は養殖法の開発による水産業の振興によって解決するのです。これは海は女性を象徴し、女性の主な使命は生産であるという統一原理から導き出される結論でもあります。

(つづく)

## 真の父母と新生(前編)

聖句 ヨハネによる福音書三章三節

イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。」

豊島教会長

中村惣一郎

### いかにして生まれ変わるか

今、拝読をしていただきました聖句は、皆様も何度も読まれている内容ですが、イエス様がなされた一番大切な宣言であります。人は新たに生まれ変わらなければ神の国を見ることはできないというお話です。この内容を明確に述べた人は、イエス様以外にありません。宗教の中では、キリスト教のみがその重要な内容を述べております。

さて、これをいかにするか、どのようにしたらなるのだろうかということをご様と一緒に考えてみたいのです。教会にいられて、三年、五年、長い方は十年、十五年、それ以上になっていると思います。皆様は、教会にいられて毎日、何を目的として歩んでおられるのでしょうか。神様が理想とされた地上天国と、それを土台とした天上天国は実現されず、それが地上の地獄と天上の地獄となってしまうということをお勉強しました。私たちは、もう一度神の理想のもとに帰るといふ目標をもって歩んでいます。間違